

個人ビジネスや小さいチームの経費精算を、スマート&スムーズに。

LINEでも、Webでも。 領収書は撮って送るだけ。

領収書の記録から会計ソフトへ渡すまで——「記帳の前工程」を受け持つ経費精算サービスです。経理の専任がない小さな会社のために。

✓ 現役の公認会計士が開発・運営

✓ 電子帳簿保存法に対応

✓ インボイス番号を国税庁と照合

✓ いまの会計ソフトのままでOK



1

撮って、送る

現場はLINEに領収書の写真を送るだけ。アプリの操作を覚える必要がありません(アプリでのカメラ撮影・ファイル添付にも対応)。

2

AIが読み取る

日付・金額・支払先・インボイス番号を自動入力。消費税率も証票から自動で判別して記録します。

3

会計ソフトへ

申請→承認→精算を管理し、汎用CSVで出力。freee・弥生・ミロクなどいまお使いの会計ソフトの汎用取込へ。

できること

AI監査

二重申請・番号の重複・読取額との不一致を自動検知。経理の専任がいなくてもチェックが効きます。

電子帳簿保存法

証票は「日付_支払先_金額_申請者」で自動保存。検索要件を満たします。

承認・精算の管理

申請済→承認済→精算済の3ステップ。未精算一覧からまとめて精算できます。

交通費・定期経費

電車の運賃は自動検索。自家用車は距離×単価。毎月の定額経費は雛形から1タップ。

データはお客様のGoogleに

経費データや証票のデータはお客様のGoogleドライブに格納。解約しても、すべて手元に残ります。

導入しやすい

2週間無料・クレカ登録不要。初期設定は最短10分。APIキーの取得は必要ありません。

顧問先1社につき1チーム・何人でも定額
月825円(税込)
ソロプラン(おひとり向け・承認ステップなし)
月330円(税込)

2週間無料トライアル
クレジットカード登録不要



keihi-log.com

デモは登録不要で
お試しください

あなたの経費データは、**あなたのもの**です。

経費データと証票の原本を当社は預かりません。すべてお客様自身のGoogleに保存されます。

安いのは、預からないからです。



PRO 先生の毎月から、何が消えるか

- ・ 顧問先の電子帳簿保存法対応が片付きます。証票の保存も検索要件も自動で満たします
- ・ 「領収書ください」の催促が消えます。顧問先はその場で撮って送るだけ
- ・ 税率の判別・インボイス番号の照合まで済んだ状態で、汎用CSVで受け取れます(列定義書あり)
- ・ メンバーとして招待されれば月次を待たず直接確認できるほか、複数の顧問先を1画面で横断できる会計事務所専用ダッシュボードもご用意しています

変わるのは、手間が減ることだけです。

WHO どの顧問先に合うか

- ・ 経理の専任がない小規模な法人。個人事業主・ひとり社長の記帳整理にも
- ・ 領収書が財布や封筒に溜まり、月次のたびに回収へ苦労している顧問先
- ・ 二重申請などはAI監査が自動検知。専任がいなくても、チェックが効きます
- ・ それより大きな規模には、より多機能なサービスのほうが合います。守備範囲は正直にお伝えします

顔が浮かんだ顧問先が、最初の一社です。

NOT 何を「やらない」か

- ・ 仕訳・帳簿・申告はしません。会計ソフトの領分です。いまお使いのソフトとそのまま共存できます
- ・ 銀行・カード明細の自動取込は、やりません。記録の入口は明細ではなく領収書です。支払い方法は問わず(立替・現金・会社払い)、証票から1件ずつ記録するため証票のない経費データが生まれません。明細で拾う支出は会計ソフトの連携におまかせします

乗り換えではなく、隙間を埋める道具です。

WHY なぜ「預からない」のか

- ・ 原本はお客様のスプレッドシートとドライブに。解約しても、記録と証票はすべて手元に残ります
- ・ データを預かるサーバーも従量課金も構造として存在しないため、月額ほかに費用が積み上がりません
- ・ データを人質に取らない。いつでもやめられるサービスだから、安心して始められます

価格は企業努力ではなく、設計の帰結です。

まずは、先生ご自身の事務所でお試ください。

2週間無料・クレジットカード登録不要。ご自身で使ってからお勧めいただくのが、いちばん自然な順番です。紹介手数料のやりとりはありません——道具として使っていただくだけです。



開発者より 合同会社Smart&Smooth 代表・公認会計士 鋤持 健(けんもち・たけし)

東京大学経済学部卒。PwC京都監査法人で約10年監査に携わり、独立後は上場準備・事業再生を支援、事業会社の副社長として上場も経験しました。経費ログの始まりは、自社の経費管理のために作った小さな道具です。「従量制で月数千〜数万円の経費精算システムは重すぎる。でも紙とExcelはつらい」——その間を埋めるものを、AIを相棒に作っています。同じ悩みを持つ会社と、伴走される先生方の道具になれば嬉しいです。

